

精密農業用ドローンシステム実証実験で醸造した日本酒を試験販売します

神奈川県では、「さがみロボット産業特区」において、生活支援ロボットの開発・普及を支援しています。このたび、神奈川県と地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所（KISTEC）が、重点プロジェクトの一環として技術支援を行っております「精密農業用ドローンシステム」の令和3年度実証実験における成果として、玄米のタンパク含有率の違いに着目し酒米を選定、醸造した新しい日本酒が試験販売されることとなりました。



【試験販売品の概要】

- ・ 2つの圃場でドローンとマルチスペクトルカメラを使い、タンパク含有率の推定を試みた酒米（山田錦）による日本酒 300ml(2本)と通常の本日本酒 300ml(2本)、250ml(1本)
- ・ ドローンシステムによる計測を行った酒米の本日本酒(2本)は、それぞれ圃場が異なるためタンパク含有率による品質の差が確認できる。
- ・ タンパク含有率の違いを活かすため、精米歩合を 90%とし、麴歩合を通常より高い 30%として醸造。
- ・ 圃場の差を確認できるようにするため、通常 1500kg(約 5000 m²分の収穫量)で醸造するところ、10分の1の 150kg(約 500 m²分の収穫量)で醸造。

【販売者】 泉橋酒造株式会社（海老名市下今泉 5-5-1）
電話:046-231-1338

【販売時期】 6月10日までの予約販売

【販売価格】 5,500円（税込）
（300ml×4本、250ml×1本の5本セット）

【産技総研及び県の主な支援内容】

- ・ 酒米のタンパク含有率の分析と日本酒の成分分析、マルチスペクトルカメラによる測定評価等（産技総研）
- ・ 実証実験に係る経費の一部支援（県）



ドローンで測定している様子

問合せ先

地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所
事業化支援部長 櫻井 電話 046-236-1503
事業化促進・デザイングループリーダー 守谷 電話 同上